



秋の自然環境学習会

春日井市
環境報告書
2022年度版



第16回環境絵画コンクール春日井市長賞作品



エコライフセミナー 竹で水でっぽう作り

春日井市環境基本計画

春日井市地球温暖化対策実行計画

春日井市生物多様性地域戦略

目次

第1章 春日井市の環境行政	1
環境基本計画の概要	1
環境関連の主な動向	3
第2章 環境目標の達成に向けた施策の展開	4
環境目標の指標一覧	4
全体目標・環境目標1 環境学習・パートナーシップ	6
環境目標2 低炭素社会	14
環境目標3 自然環境	15
環境目標4 循環型社会	16
環境目標5 都市環境・生活環境	20
第3章 地球温暖化対策実行計画	24
地球温暖化対策実行計画の概要	24
削減目標の進捗状況	25
第4章 生物多様性地域戦略	34
生物多様性地域戦略の概要	34
基本方針1 多様な生き物の生息・生育環境の保全	35
基本方針2 持続可能な生物多様性の恩恵の享受	36
基本方針3 生物多様性を支える人材の育成	38
参考 春日井市環境基本計画（2013年度改定版）	40
春日井市環境基本計画（2013年度改定版）の概要	40

第1章 春日井市の環境行政

環境基本計画の概要

環境基本計画とは

春日井市の豊かな自然環境や生活環境を守り、かけがえのない地球環境を次世代に引き継いでいくことをめざし、市民・事業者・市が自主的かつ積極的に環境の保全等に取り組むとともに、相互に協力し、連携する考え方を明らかにしたものです。

計画期間

2022年度から2030年度までを計画期間とし、長期的に2050年を展望します。

計画の位置付け



環境像

豊かな自然と暮らしが調和する 環境にやさしいまち かすがい
～わたしたちの未来と地球のために～

施策の体系

環境像を実現するため、5つの環境目標を掲げ、それぞれの環境目標の達成に向けた施策の柱とその具体的な施策を定めています。

環境目標1「環境学習・パートナーシップ」は、環境学習により市民・事業者の意識を高め、市民・事業者・市が連携・協働して、新たな課題を解決することを幅広く推進していくため、全体目標とします。



指標

環境目標ごとに目標の達成状況を示す達成指標と、達成指標の実現に向けた具体的な行動を示す個別指標を設定しています。

計画の推進

市民・事業者・市のそれぞれが積極的に環境活動を行っていくことが重要です。

「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」を中心に、市民・市民団体・事業者・市などが、幅広く参加、連携して、本計画を推進していきます。

環境関連の主な動向

近年の主な動向（直近5年）

年	国際社会	国	愛知県	春日井市
2018	・「気候変動に関する政府間パネル(IPCC) 1.5℃特別報告書」発表	・第五次環境基本計画策定 ・気候変動適応法制定 ・第四次循環型社会形成推進基本計画策定 ・第五次エネルギー基本計画策定 ・気候変動適応計画策定	・愛知県地球温暖化対策推進条例制定 ・あいち地球温暖化防止戦略 2030 策定	・第六次総合計画策定 ・立地適正化計画策定 ・第2次生涯学習推進計画策定
2019	・「G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組」採択	・プラスチック資源循環戦略策定 ・パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略策定(2050年までに80%温室効果ガスの排出削減) ・食品ロス削減推進法制定		・ごみ処理基本計画改定 ・災害廃棄物処理計画策定 ・地球温暖化対策実行計画 2019-2030 改定 ・第3次産業振興アクションプラン策定
2020		・気候危機宣言 ・2050年カーボンニュートラル宣言	・レッドリストあいち 2020 及びレッドデータブックあいち 2020 公表 ・愛知県気候変動適応計画策定	・第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定 ・都市計画マスタープラン策定 ・地域強靱化計画策定
2021	・ノーベル物理学賞（地球気候の物理モデルの開発）受賞 ・生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)開催 ・気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)開催	・地球温暖化対策推進法改正（温室効果ガス2050年実質ゼロ） ・地球温暖化対策計画改訂 ・パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略策定(2050年カーボンニュートラル実現)	・あいち生物多様性戦略 2030 策定 ・第5次愛知県環境基本計画策定	・地域公共交通計画策定 ・自転車活用推進計画策定 ・緑の基本計画策定 ・ゼロカーボンシティ かすがい宣言
2022	・気候変動枠組条約第27回締約国会議(COP27)開催		・あいち地球温暖化防止戦略 2030 改定	・環境基本計画 2022-2030 策定 ・公共施設等マネジメント計画改定

第2章 環境目標の達成に向けた施策の展開

環境目標の指標一覧

【進捗状況の見方】

 目標を達成、または目標達成に向けて順調に進んでいます。

 改善傾向にありますが、さらなる努力が必要です。

 改善の傾向がありません。

環境目標		指標	前回値 (2020年度)	最新値 (2021年度)	目標値 (2030年度)	進捗 状況	市関連計画
1 パートナーシップ	達成	☆環境まちづくり参加人数（総人口比）	5.2%	13.6%	維持(16.9%)		-
	個別	☆青空教室、出前講座の参加人数【延べ】	78,963人	83,462人	120,000人		-
		☆自然環境の保全を行う市民団体などの会員数【延べ 単年度】	562人	545人	350人 (2026年度)		第六次総合計画
		環境に配慮した事業所数【延べ 単年度】	145事業所	148事業所	増加		-
2 低炭素社会	達成	温室効果ガス総排出量（2013年度比）	-13.7% (2019年度)	-21.6% (2020年度)	-26%		地球温暖化対策実行計画
		☆民生家庭部門 温室効果ガス排出量（2013年度比）	-18.8% (2019年度)	-18.0% (2020年度)	-40%		地球温暖化対策実行計画
	個別	☆各世帯の1か月当たりの平均の電気使用量（2013年度比）	-7.3%	-7.3%	-14%		地球温暖化対策実行計画
		市役所エネルギー起源 CO ₂ 排出量（公用車除く）（2013年度比）	-17.8%	-11.8%	-49%		市役所地球温暖化対策行動指針
		☆災害への備えをしている家庭の割合	50.5% (2016年度)	55.3%	60.0% (2026年度)		第六次総合計画
		☆熱中症の搬送人数	110人	88人	減少		-
	雨水流出抑制施設【累計】	53施設	53施設	55施設		-	
3 自然環境	達成	自然環境への満足度	36.1% (2016年度)	23.5%	増加		第六次総合計画
		市内全体の緑被率	42.0% (2014年度)	40.6% (2020年度)	維持(40.6%)		緑の基本計画
	個別	☆自然環境保全活動推進員の委嘱人数（任期2年）【延べ】	190人 (2019年度)	226人	350人		生物多様性地域戦略
		民有地緑化の箇所数を増やす（あいち森と緑づくり事業）	-	2箇所	5箇所		緑の基本計画
		☆アダプト・プログラム参加団体数	10団体	9団体	15団体		緑の基本計画
		☆公園・緑地づくりのワークショップの実施数【累計】	-	2公園	10公園		緑の基本計画

環境目標		指標	前回値 (2020年度)	最新値 (2021年度)	目標値 (2030年度)	進捗状況	市関連計画
4 循環型社会	達成	1人1日当たりごみ排出量	711g	685g	660g (2028年度)		ごみ処理基本計画
	個別	☆1人1日当たり家庭系ごみ排出量	531g	501g	487g (2028年度)		ごみ処理基本計画
		事業系ごみ排出量	20,483 t	20,816 t	19,557 t (2028年度)		ごみ処理基本計画
		☆ごみ出しルールやマナーが守られているごみステーションの割合	79.6% (2014年度)	87.1%	90.0% (2026年度)		第六次総合計画
		1人当たりごみ処理費用	13,108円 (2019年度)	13,710円 (2020年度)	11,131円 (2028年度)		ごみ処理基本計画
5 都市環境・生活環境	達成	交通の利便に対する満足度	2.53 (2016年度)	2.86	2.80 (2025年度)		地域公共交通計画
	個別	環境基準達成率（大気・水質・騒音）	12項目中 11項目達成	12項目中 10項目達成	項目ごとに 100%達成		-
		☆市内バスの年間利用者数	5,403千人 (2019年度)	3,796千人 (2020年度)	5,415千人 (2025年度)		地域公共交通計画
		基幹的公共交通の人口カバー率（居住誘導区域）	-	65.7% (2010年度)	65.5%以上 (2026年度)		立地適正化計画
		自転車通行空間の整備延長【累計】	-	32.1km (2020年度)	53.9km (2023年度)		自転車活用推進計画
		汚水処理人口普及率	88.1% (2016年度)	88.4% (2020年度)	96.1% (2026年度)		第六次総合計画

☆：市民の努力が反映される指標

[延べ]：毎年度加算され、出前講座と青空教室ともに参加しているなど重複がある値

[延べ単年度]：単年度の値だが、複数の市民団体に加入しているなどの重複がある値

[累計]：毎年度加算され、重複がない値

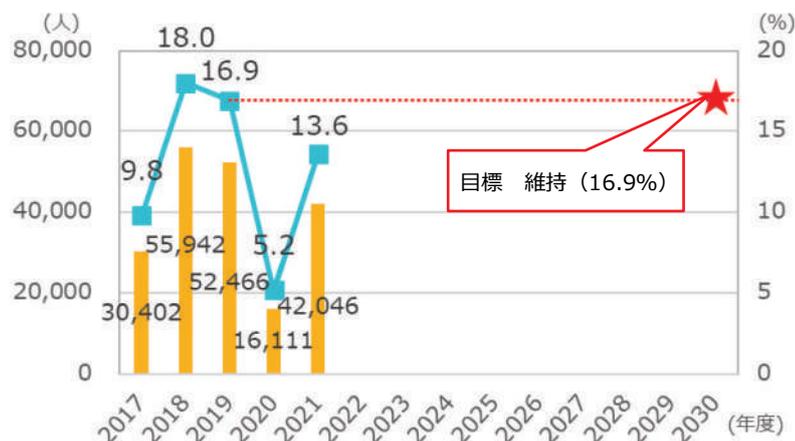
全体目標・環境目標 1 環境学習・パートナーシップ



環境について学び、市民・事業者・市が連携・協働して環境にやさしい行動を行うまちを目指します。

指標の進捗状況

達成指標 ☆環境まちづくり参加人数（総人口比）



2021 年度
13.6%

環境まちづくり参加人数は、前年度から増加しましたが、目標を達成していません。

新型コロナウイルス感染症に対応した環境に関するイベント等が開催されています。

個別指標

☆青空教室、出前講座の参加人数 [延べ]

ごみの減量などについて学ぶ青空教室は、小学校 34 校、幼保育園 36 園で実施しています。

地球温暖化について学ぶ出前講座は、小学校等で 9 回実施しています。

2021 年度 延べ
83,462 人



個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆自然環境の保全を行う市民団体などの会員数 [延べ 単年度]	562 人 (2020 年度)	545 人 (2021 年度)	350 人 (2026 年度)		第六次総合計画
環境に配慮した事業所数 [延べ 単年度]	145 事業所 (2020 年度)	148 事業所 (2021 年度)	増加 (2030 年度)		-

施策の展開

○子ども環境アカデミー



子ども（小学4～6年生）とその保護者を対象に、見学や体験を交え楽しみながら家族ぐるみで環境について学び、考えるきっかけづくりとするため、全5回の連続講座を実施しました。

2021年度は15組31名の方が受講し、環境への取組みを率先して実施するエコファミリーの育成を図ることができました。

実施内容（2021年度）

講座名	講師	開催日	参加者
日本のカメと外国のカメ ～カメを通じて外来種について知ろう～	愛知学泉大学 現代マネジメント学部 教授 矢部 隆	6月26日（土）	12組 25名
地球に優しいお買い物とエコ工作	ユニー株式会社 ESG推進課 サブマネージャー 江口登美子	7月18日（日）	12組 24名
だれ一人取り残されないために ～僕の国キリバスからのメッセージ～	一般社団法人 日本キリバス協会 代表理事 ケンタロ・オノ	10月17日（日）	90名 ^{※1}
親子おもしろ実験室 ～水質調査体験と液体ちっ素を使った実験～	市職員	10月30日（土）	10組 23名
海洋プラスチックをリサイクル ～海洋プラスチックが万華鏡に生まれ変わる～	Sobolon 山崎 姫菜子	12月4日（土）	12組 26名

※1：子ども環境アカデミー参加者は18名



外来種の講義（第1回）



親子おもしろ実験室（第4回）

○市民環境アカデミー

環境について幅広い知識を有し、環境への取組みを実践できるリーダー的な役割を担う人材を育成するため、地球温暖化、資源循環、生物多様性、海洋汚染など、幅広く環境について講義などを通じて学べる全6回講座を実施しました。



市民環境アカデミー

2021年度は受講者41人のうち、全6回中5回以上出席した29人の方へ修了証を交付しました。

実施内容（2021年度）

講座名 <テーマ>	講師	開催日	参加者
だれ一人取り残されないために ～僕の国キリバスからのメッセージ～ <地球温暖化>	一般社団法人 日本キリバス協会 代表理事 ケンタロ・オノ	10月17日（日）	90名 ^{※1}
地球の誕生から現在までの気候変動 <地球環境>	愛知教育大学 自然科学系 教授 星 博幸	10月5日（火）	31名
食品ロスの国内事情と海外の取り組み <食品ロス>	愛知工業大学 経営学部経営学科 教授 小林 富雄	11月12日（金）	34名
ゼロカーボンシティかすがいの実現に向けて <地球温暖化、再生可能エネルギー>	東京大学 未来ビジョン研究センター 教授 高村 ゆかり	12月5日（日）	35名
爬虫類・両生類から見る愛知の生物多様性 <生物多様性>	愛知学泉大学 現代マネジメント学部 教授 矢部 隆	1月12日（水）	28名
持続可能な社会形成 <循環型社会、SDGs>	中部大学副学長 経営情報学部学部長 教授 細田 衛士	2月8日（火）	31名

※1：市民環境アカデミー参加者は30名



地球温暖化の講義（第1回）



食品ロスの講義（第3回）

○市民環境フォーラム

市民の環境活動への取組みの推進と団体や個人等の交流促進や環境情報を提供するために市民環境フォーラムを開催しています。



市民環境フォーラム

2021年度は、かすがい環境賞及び環境絵画コンクール春日井市長賞の表彰式、「ざんねんないきもの事典」の監修を務められた動物学者 今泉忠明氏をお迎えした基調講演を行いました。

基調講演では、「ざんねんないきもの事典」に掲載されている動物を例に、その生態などについて、実際の映像を見ながら解説いただき、参加者が生態系や自然環境について考えるきっかけとなりました。

実施内容（2021年度）

開催日	場所	参加者	内容
12月11日 (土)	東部市民センター	280人	<ul style="list-style-type: none"> ○かすがい環境賞 個人：堀 妙子 団体：かすがい東部丘陵自然観察会 社会福祉法人サン・ビジョン ○環境絵画コンクール春日井市長賞 幸島 嶺太 タイトル：きれいなサンゴ礁を守ろう ○基調講演 テーマ：「ざんねんないきもの」から学ぶ進化のふしぎ 講師：動物学者 今泉 忠明



「かすがい環境賞」表彰



基調講演



ラッピングしたごみ収集車との記念写真

〇かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議



かすがい環境まちづくり
パートナーシップ会議

市民、事業者、市の三者協働による環境まちづくりを推進する組織として、2002年12月に「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議（以下、「PS会議」という。）」が設立され、2021年度末の会員数は市民31人・市民団体14団体・事業者6社となっています。

PS会議は、市の環境に関するイベントに参加・共催するとともに、市民や市民団体の連携の輪を広げるため、様々な自主イベントを実施しました。

主なイベント（2021年度）

イベント名	開催日	内容
水生生物調査と水質調査	6月6日 (日)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、主催のたかくらこどもエコクラブのスタッフ等8人で実施した。水生生物調査では、ヤゴやヌマエビ、トビゲラ類などを見つけ、水質調査の結果、庄内川を流れる水の透視度は90と、とてもきれいなことが分かった。
林間学校「竹で水鉄砲を作ってみよう！」	7月31日 (土)	かすがい里山自然楽校の協力のもと、竹の水鉄砲づくりと自然観察を行った。自生する植物を実際に触ったりにおいを確かめたりと自然の豊かさを体感し、自然観察を楽しんだ。その後、竹を使った水鉄砲を作製した。慣れないながらもノコギリを使った作業をこなし、上手に作り上げた。
藤前干潟クリーン大作戦！！	10月23日 (土)	第35回を迎えた藤前干潟クリーン大作戦では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続きバスツアーは取り止め、PS会議運営委員と事務局員計2人で清掃活動に参加した。葦や堤防に流れ着いたペットボトルや空き缶、プラスチック容器などのごみを手作業で回収した。山積みになったたくさんのごみを見て、庄内川上流域に住む私たちの行動を考えるきっかけとなった。
冬のエコツアー「飛行機のエコを探そう！」	1月10日 (月)	市の協定に基づくゼロカーボン推進事業として航空業界における地球温暖化対策などについて学ぶイベントを開催した。株式会社フジドリームエアラインズの協力のもと、コックピットに座ったり、機体にメッセージを書いたり貴重な体験となった。最後にあいち航空ミュージアムのガイドツアーで飛行機の歴史に触れることができた。
ポイ捨て・ふん害防止啓発活動	3月13日 (日)	3年ぶりの開催となるポイ捨て・ふん害防止啓発活動にPS会議として初めて参加した。PS会議は落合公園内の清掃を行った。たばこの吸い殻やお菓子の包装などが多少あるものの、ごみは少なくきれいに保たれていた。



水質調査



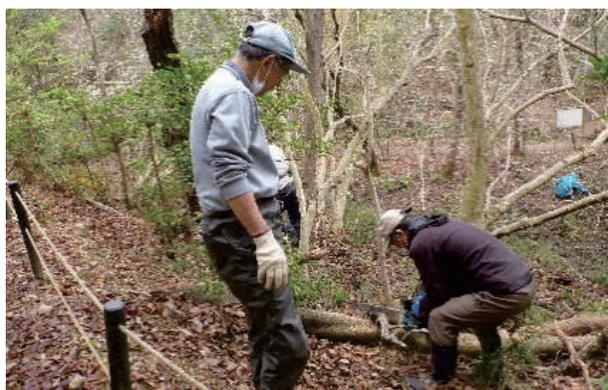
林間学校

○市民団体による環境保全活動

持続可能な社会の実現に寄与するため、PS 会議の市民団体会員により、様々な環境保全活動が行われています。

PS 会議の市民団体会員による環境保全活動（2021 年度）

市民団体名	活動内容
ガールスカウト愛知県第 110 団	ガールスカウトの理念に則り、森・水などの知識を自然体験を通して身近なものとするプログラムを年間通して実施した。
春日井 SDGs 推進ネットワーク	国連が 15 年間（2016～2030 年）で達成するために掲げた 17 の国際目標である『持続可能な開発目標（SDGs）』を推進することを目的に活動した。
かすがい里山自然楽校	潮見坂平和公園内の希少植物の生息地保全整備や、自然体験、観察会などの環境学習のためのフィールド整備を行った。また、なごや環境大学の認定教育講座や環境学習会を開催した。
春日井里山保存会	ビオトープを設置し、水生生物等の保護・管理など自然環境の保全を行った。2021 年度は、環境保全啓発掲示板の老朽化に伴い、取替修繕を行った。
かすがいシェアリングネイチャーの会	ネイチャーゲームを通じて自然への憧憬を深め、自然環境の大切さを学び伝える活動を行った。
春日井自然友の会	少年自然の家内のハルリンドウなど希少植物の個体数調査やホタルの生息環境整備など自然保護活動を行った他、西尾町を中心とした市内のシデコブシ植生調査や内津地区の植生調査を実施し、結果を冊子にまとめた。
春日井スカウト団協議会	ボーイスカウト・ガールスカウトで構成され、青少年の健全育成を目標とし、野外活動を通して自然を学び友情協調の精神を育てる事を目的として活動した。
かすがい東部丘陵自然観察会	小学 3 年生の理科の授業で行うアゲハチョウの飼育に利用するアゲハソウの育成と小学校への配布を行った。アゲハソウの育成は、高森台小学校園芸部の児童と一緒に作業した。その他にも、小学校の自然観察の講師を務め、野外学習をサポートした。
環境学習ネットワークグループ	ギフチョウの頭数、卵数調査、カンアオイの保護の他、不要木の伐採、除草などの里山環境整備を実施した。また、高座小学校、岩成台小学校 5 年生の野外学習などの学習支援を行った。
高蔵寺ニュータウン生き生き楽農会	玉野の遊休地で安心安全な有機野菜づくりや自然環境保全のための清掃活動を行った。また、農作地へのイノシシ侵入防止のためのネットの補修及び強化対策を実施した。
たかくらこどもエコクラブ	高座小学校内にて環境学習と自然遊び、エコ工作、庄内川の水質調査とガサガサ体験など様々な環境学習及び体験を行った。また、愛知環境学習プラザの施設見学やサマーキャンプの代替企画として「高蔵寺エコ探検」を実施した。
特定非営利活動法人ザ・希望	障害者・高齢者等とともに、耕運機による畑の浄化やさつまいもの蔓の植え付けを行った。収穫の際は地域の子ども達に参加し、芋ほりを通じて自然とふれあった。
名古屋工業大学ソーラーカー部	ソーラーカーの開発や製作を通じて、省エネや次世代エネルギー利用の普及・促進に取り組んだ。
みろく山麓の自然を守る会	築水池で湿地内の植物開花調査や水温・気温の調査を行う自然観察会を実施した。また、除草や間伐など湿地の保全作業や散策路などの整備のために倒木の除去や林床整備を実施した。



枯死樹木伐採（春日井自然友の会）



自然観察会（みろく山麓の自然を守る会）



耕作地域の草刈り・清掃活動
（高蔵寺ニュータウン生き生き楽農会）

○環境絵画コンクール春日井市長賞

パナソニック エコシステムズ株式会社では、子どもの頃から環境を意識した行動ができるよう「環境絵画コンクール」を実施しています。市はこの趣旨に賛同し後援するとともに、特別賞「春日井市長賞」を設け、受賞作品をごみ収集車にラッピングしています。



環境絵画
コンクール
春日井市長賞



第16回環境絵画コンクール
春日井市長賞作品



受賞作品がラッピング
されたごみ収集車

○かすがいエコオフィス認定事業所の拡大と支援

節電や節水、ごみの減量化、次世代自動車の導入など環境に配慮した取組みを実施している事業所を応援するため、「かすがいエコオフィス認定制度」を設けています。



かすがいエコオフィス
認定制度

「かすがいエコオフィス」に認定されると、認定証と認定ステッカーが交付され、環境活動のPRに活用できるほか、「エコオフィスかすがい」のロゴマークを名刺やチラシ等に印刷して使用することができます。また、環境に配慮した取組みを行う事業所として市ホームページで紹介しています。2021年度末に認定されている「かすがいエコオフィス」は61事業所です。



認定ステッカー

○大学との連携・協働事業について

幼少期から、環境への関心を高めるため、また学生を将来の環境教育の担い手と位置付け、人材育成を図るため、中部大学幼児教育学科と連携し、幼児向けの環境教育プログラムを実施しています。

2021年度は、前年度に作成したごみ分別や水資源、食品ロスに関する3種類のポスターを保育園児へ贈呈した他、保育園児向けのクリーンセンター紹介動画を作成しました。



ポスター贈呈式



上から時計回りでごみ分別、
水資源、食品ロスのポスター

環境目標 2 低炭素社会



関連



省エネルギーの取組みが市民や事業者に着した低炭素なまちをめざします。

指標の進捗状況

達成指標 温室効果ガス総排出量（2013年度比）



2020年度
-21.6%

温室効果ガス総排出量（2013年度比）は目標達成に向けて順調に進んでいます。
前年度に比べ減少しています。

☆ 民生家庭部門 温室効果ガス排出量（2013年度比）



2020年度
-18.0%

民生家庭部門 温室効果ガス排出量（2013年度比）は目標達成に向けて順調に進んでいます。
前年度に比べ増加しています。

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆ 各世帯の1か月当たりの平均の電気使用量（2013年度比）	-7.3% (2020年度)	-7.3% (2021年度)	-14% (2030年度)		地球温暖化対策実行計画
市役所エネルギー起源CO ₂ 排出量（公用車除く）（2013年度比）	-17.8% (2020年度)	-11.8% (2021年度)	-49% (2030年度)		市役所地球温暖化対策行動指針
☆ 災害への備えをしている家庭の割合	50.5% (2016年度)	55.3% (2021年度)	60.0% (2026年度)		第六次総合計画
☆ 熱中症の搬送人数	110人 (2020年度)	88人 (2021年度)	減少 (2030年度)		-
雨水流出抑制施設【累計】	53施設 (2020年度)	53施設 (2021年度)	55施設 (2030年度)		-

施策の展開については、第3章 地球温暖化対策実行計画（p24～）を参照してください。

環境目標 3 自然環境



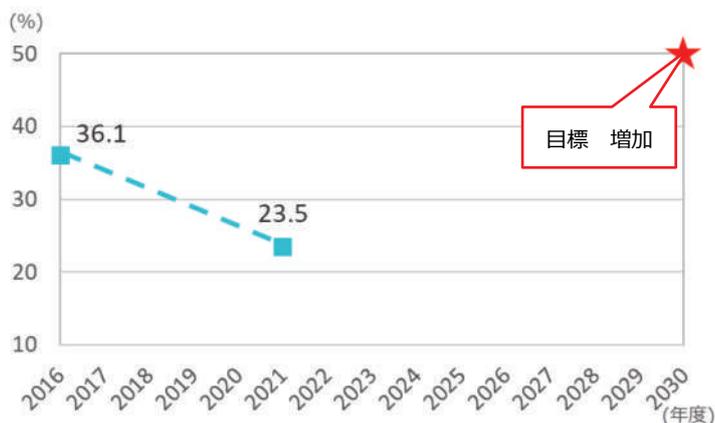
関連



自然環境や生態系が保全され、豊かな自然の恵みを楽しむまちをめざします。

指標の進捗状況

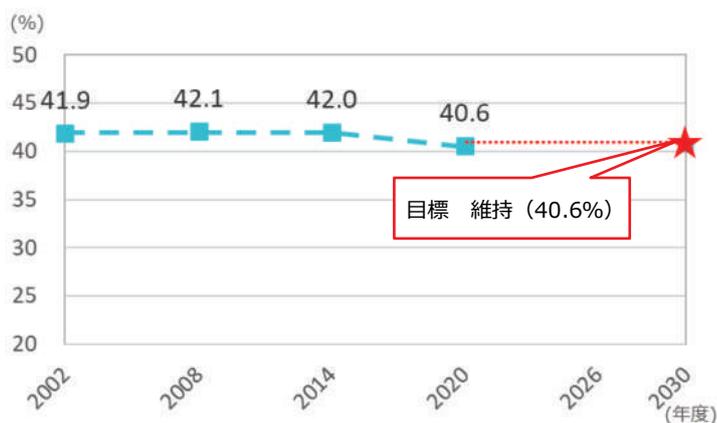
達成指標 自然環境への満足度



2021年度
23.5%

市民意識調査の結果、自然環境への満足度は減少傾向となっています。

市内全体の緑被率



2020年度
40.6%

2020年度に算出した市内全体の緑被率は40.6%であり、この値を維持することを目標としています。

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆自然環境保全活動推進員の委嘱人数（任期2年）【延べ】	190人 (2019年度)	226人 (2021年度)	350人 (2030年度)		生物多様性地域戦略
民有地緑化の箇所数を増やす（あいち森と緑づくり事業）	—	2箇所 (2021年度)	5箇所 (2030年度)		緑の基本計画
☆アダプト・プログラム参加団体数	10団体 (2020年度)	9団体 (2021年度)	15団体 (2030年度)		緑の基本計画
☆公園・緑地づくりのワークショップの実施数【累計】	—	2公園 (2021年度)	10公園 (2030年度)		緑の基本計画

施策の展開については、第4章 生物多様性地域戦略（p34～）を参照してください。

環境目標 4 循環型社会



関連



4R やごみの適正処理に取り組み、ごみを減らし資源を循環することができるまちをめざします。

指標の進捗状況

達成指標 1人1日当たりごみ排出量



2021年度

685g

1人1日当たりごみ排出量は目標達成に向けて順調に進んでいます。
前年度に比べ減少しています。

※2022年1月にクリーンセンターで発生した火災事故の影響により、2022年1月18日から25日までの期間に搬入されたごみは2021年度の値に含まれていません。

個別指標

☆ 1人1日当たり家庭系ごみ排出量

1人1日当たり家庭系ごみ排出量は目標達成に向けて順調に進んでいます。

前年度に比べ減少しています。



2021年度

501g



※2022年1月にクリーンセンターで発生した火災事故の影響により、2022年1月18日から25日までの期間に搬入されたごみは2021年度の値に含まれていません。

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
事業系ごみ排出量	20,483 t (2020年度)	20,816 t (2021年度)	19,557 t (2028年度)		ごみ処理基本計画
☆ごみ出しルールやマナーが守られているごみステーションの割合	79.6% (2014年度)	87.1% (2021年度)	90.0% (2026年度)		第六次総合計画
1人当たりごみ処理費用	13,108円 (2019年度)	13,710円 (2020年度)	11,131円 (2028年度)		ごみ処理基本計画

施策の展開

○環境カレンダー、ごみ分別アプリ「さんあ〜る」等の利用促進

家庭からのCO₂排出量分かる「環境家計簿」と「資源・ごみ出しカレンダー」を組み合わせ合わせた「環境カレンダー」と、資源・ごみの出し方を詳しく掲載した「資源・ごみの出し方便利帳」を作成し、広く市民に配付することにより、資源分別、ごみの減量や省エネが地球温暖化防止につながる取組みであることを啓発しました。また、2018年3月に導入したごみ収集日や分別方法の検索機能などを有するスマートフォン用ごみ分別アプリ「さんあ〜る」のインフォメーション機能を活用し、情報提供に努めました。



環境カレンダー



環境カレンダー



ごみ分別アプリ「さんあ〜る」

○かすがいクリーン大作戦

多くの市民や団体の方々と協働で快適な住みよい生活環境を実現することを目的として、市内全域で春季、秋季の年2回クリーン大作戦を実施しています。



かすがい
クリーン大作戦

2021年度秋季は、区・町内会・自治会 345 団体、参加人数 35,104 人の参加があり、計 170.25 トンのごみを収集することができました。



2021 年秋季かすがいクリーン大作戦

かすがいクリーン大作戦の過去3年間実績

	2019 年度		2020 年度		2021 年度	
	春季	秋季	春季※1	秋季	春季※1	秋季
参加団体	404 団体	393 団体	—	362 団体	—	345 団体
参加人数	42,548 人	40,873 人	—	38,180 人	—	35,104 人
ごみ収集量	162.83t	166.05t	—	213.36t	—	170.25t

※1:2020 年度春季、2021 年度春季は新型コロナウイルス感染拡大のため中止

○エコ先案内人

ごみの減量やリサイクル、家庭でのエコ生活などについて、親子を対象に環境紙芝居やエコクイズ、エコ工作を通して、楽しく分かりやすく案内する「エコ先案内人」を実施しました。毎月1回、日曜日の午前10時から午後3時まで、クリーンセンターの環境啓発施設エコメッセ春日井において開催し、3月までに延べ195人の参加がありました。

実施内容（2021年度）

No.	開催日	参加者	エコ工作内容
1	4月11日（日）	21人	アメリカンクラッカー
2	5月9日（日）	22人	母の日の花束
3	6月13日（日）	中止	まつぼっくりのけん玉
4	7月11日（日）	18人	タラヨウのエコ宣言
5	8月8日（日）	13人	石に絵を描く
6	9月12日（日）	中止	マラカス作り
7	10月10日（日）	26人	どんぐりごま
8	11月21日（日）	22人	マラカス作り
9	12月12日（日）	28人	牛乳パックの魚つり
10	1月16日（日）	15人	身近なものを使った手品
11	2月13日（日）	16人	身近なものを使った手品
12	3月13日（日）	14人	身近なものを使った手品

※1月～3月はエコ工作の代わりに身近なものを使った手品を披露



「石に絵を描く」の様子

○環境に配慮したごみ処理施設の整備（資源化・廃熱利用）

ごみ処理施設の適切かつ効率的な維持管理を行うために、資源化・廃熱利用に取り組んでいます。2021年度は、市内で回収された飲料缶やガラスびん、ペットボトル等11,507.40tを資源化しました。

ごみ焼却による廃熱を利用した廃熱ボイラによって発電し、その電力を場内の冷暖房等で有効利用するとともに、本庁舎や小中学校等の公共施設109施設へ供給しています。2021年度は場内で653,797.5GJの廃熱を利用し、発電量は30,022,760kWhとなっています。

○資源分別収集

市内の約 7,400 か所に設置されたごみステーションで、家庭から出た飲料缶・ガラスびん・ペットボトル・新聞紙・雑誌・段ボール・古着・牛乳パックを 2002 年 10 月から、プラスチック製容器包装や金属類を 2013 年 4 月から資源として分別収集しています。



資源・ごみの
出し方便利帳

収集にあたっては、ごみ・資源の分別の徹底と排出マナーの向上を目的に、2007 年 2 月から指定袋制度を導入しており、2021 年 10 月からは金属類（発火性危険物）の指定袋（赤色）を導入しています。

資源は、ごみステーションでの収集をはじめ、子ども会や学校などの資源回収団体の活動による回収等があり、新聞、雑誌など 11 種類の資源の分別をしています。

蛍光管の拠点回収は、2019 年 10 月から開始し、2021 年 10 月から坂下出張所、味美ふれあいセンター、鷹来公民館及びレディヤンかすがいを加えた 12 施設で行っており、2021 年度は 2,348 本回収しました。なお、2020 年 11 月から愛知県電機商業組合春日井支部加盟の一部協力店舗でも回収を始めています。

資源回収状況

	2019 年度		2020 年度		2021 年度	
	市収集	資源回収団体	市収集	資源回収団体	市収集	資源回収団体
新聞	1,466.71 t	1,113.66 t	1,426.25 t	369.62 t	1,574.98 t	384.71 t
雑誌 (雑がみを含む)	1,591.70 t	451.48 t	1,712.94 t	189.52 t	1,641.77 t	183.59 t
段ボール	1,303.35 t	263.58 t	1,457.45 t	135.33 t	1,425.54 t	139.04 t
古着	455.54 t	58.62 t	573.52 t	16.61 t	531.83 t	21.18 t
牛乳パック	37.09 t	18.75 t	45.01 t	8.65 t	42.41 t	8.27 t
飲料缶	267.40 t	36.18 t (アルミ缶)	311.00 t	24.62 t (アルミ缶)	320.43 t	23.41 t (アルミ缶)
ガラスびん	1,556.91 t	0 t	1,600.65 t	0 t	1,523.73 t	0 t
ペットボトル	799.77 t	—	827.25 t	—	819.37 t	—
天ぷら油	11.39 t	—	12.26 t	—	11.17 t	—
プラスチック製 容器包装	2,761.27 t	—	2,816.92 t	—	2,850.68 t	—
金属類 (小型家電を含む)	937.95 t	—	1,120.85 t	—	765.49 t	—
合計	11,189.08 t	1,942.27 t	11,904.10 t	744.35 t	11,507.40 t	760.20 t

環境目標 5 都市環境・生活環境



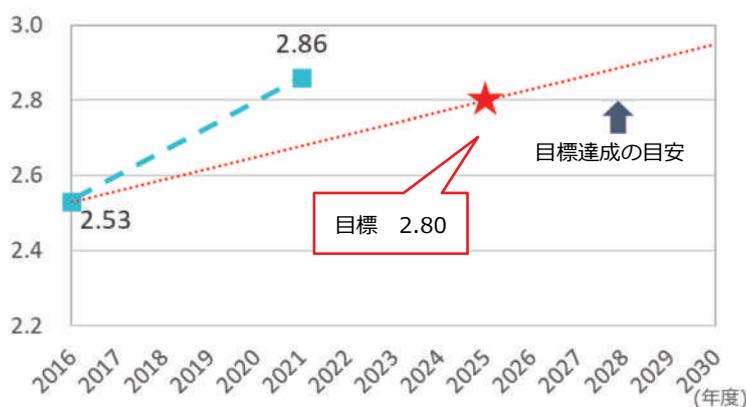
関連



快適な都市環境と良好な生活環境が確保されたまちをめざします。

指標の進捗状況

達成目標 交通の利便に対する満足度



2021年度

2.86

市民意識調査の結果、交通の利便に対する満足度は増加傾向となっています。

環境基準達成率（大気・水質・騒音）

2021年度は、大気・水質・騒音に関する全12項目中10項目が環境基準を達成しています。



2021年度

**12項目中
10項目達成**

⑩地下水では、測定計画に基づき実施した概況調査（1地点）において、環境基準の超過を確認しました。市は、周辺調査を実施するとともに、周辺住民に汚染の状況を周知しました。今後も、継続的な地下水の水質調査を実施します。

⑫環境騒音（自動車騒音）では、環境基準をおおむね達成しており、騒音改善の措置を関係機関に要請する際の限度を超過した地点はありませんでした。

項目	区分	測定値	単位	環境基準等	適合地点数	達成率 (%)	適合 可否	
					測定地点数			
大気	①	二酸化硫黄(SO ₂) 日平均の2%除外値	0.001、0.006	ppm	日平均の2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、日平均0.04ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。	2/2	100	○
		超過日数	0	日				
	②	二酸化窒素(NO ₂) 日平均値の年間98%値	0.013~0.024	ppm	日平均の年間98%値が0.06ppm以下であること。	4/4	100	○
		浮遊粒子状物質(SPM) 日平均の2%除外値	0.022~0.025	mg/m ³				
	③	超過日数	0	日	日平均の2%除外値が0.10mg/m ³ を超えた日が2日以上連続しないこと。	4/4	100	○
		一酸化炭素(CO) 日平均の2%除外値	0.36	ppm				
	④	超過日数	0	日	日平均の2%除外値が10ppm以下であること。ただし、日平均10ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。	1/1	100	○

項目		区分	測定値	単位	環境基準等	適合地点数 測定値点数	達成率 (%)	適合 可否
大気	⑤ 揮発性有機化合物 濃度平均値	ベンゼン	0.0011~0.0014	mg/m ³	1年平均値が 0.003mg /m ³ 以下であること。	4/4	100	○
		トリクロロエチレン	<0.0003	mg/m ³	1年平均値が 0.13mg/m ³ 以下であること。	4/4		
		テトラクロロエチレン	<0.0003	mg/m ³	1年平均値が0.2mg/m ³ 以下であること。	4/4		
		ジクロロメタン	0.0010~0.0014	mg/m ³	1年平均値が ⁰ 0.15mg/m ³ 以下であること。	4/4		
	⑥ 大気中のダイオキシン類平均値		0.018、0.036	pg-TEQ/m ³	1年平均値が 0.6pg-TEQ/m ³ 以下であること。	2/2	100	○
水質	⑦ 健康項目 (庄内川・市内中小河川)		全項目適合	-	27項目設定 ^{※1}	17/17	100	○
	⑧ 生活環境項目 生物化学的酸素要求量(BOD) の75%値(庄内川)		0.8~2.3	mg/L	2 mg/L 以下又は5 mg/L 以下 (河川区域による)	5/5	100	○
	⑨ 同(BOD)の75%値 (市内中小河川)		0.8~6.8	mg/L	(市独自目標) 8 mg/L 以下	12/12	100	○
	⑩ 健康項目(地下水)	メッシュ別調査	2項目不適合	-	28項目設定 ^{※2}	0/1	0	×
騒音	⑪ 環境騒音(一般)	昼間	41~54	デシベル	55~60デシベル以下 (地域による)	9/9	100	○
		夜間	34~47	デシベル	45~50デシベル以下 (地域による)	9/9	100	
	⑫ 環境騒音(自動車騒音)	昼間	61~72	デシベル	70デシベル以下	7,590/7,635	※3 99.4	×
			84.0~100	%				
		夜間	53~69	デシベル	65デシベル以下	7,579/7,635	※3 99.3	
		55.6~100	%					

※1:カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサンの27項目。

※2:※1のうち、シス-1,2-ジクロロエチレンに代わり、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレンを加えた28項目。

※3:騒音⑫環境騒音(自動車騒音)の達成率は、対象とする全戸数の達成率。

個別指標

個別指標	前回値	最新値	目標値	進捗状況	市関連計画
☆市内バスの年間利用者数	5,403千人 (2019年度)	3,796千人 (2020年度)	5,415千人 (2025年度)		地域公共交通計画
基幹的公共交通の人口カバー率(居住誘導区域)	—	65.7% (2010年度)	65.5%以上 (2026年度)		立地適正化計画
自転車通行空間の整備延長[累計]	—	32.1km (2020年度)	53.9km (2023年度)		自転車活用推進計画
汚水処理人口普及率	88.1% (2016年度)	88.4% (2020年度)	96.1% (2026年度)		第六次総合計画

施策の展開

○高蔵寺ニューモビリティタウン構想事業

多様な移動手段の確保を目的に、市と名古屋大学が連携し、2021年6月から2022年3月に、高蔵寺ニュータウンにおいて「AI オンデマンド乗合サービス」等の実証実験を実施し、174名が利用、2015件の輸送がありました。



高蔵寺ニューモビリティ
タウン構想

また、ラストマイル（バス停から自宅までの道）交通を支えることを目的に、2021年6月から8月及び2022年1月から3月に、石尾台地区において電動で自動走行する「ゆっくりカート」による実証実験を実施しました。

これらの取組みは、新たな移動手段の確保の他、二酸化炭素排出量の削減にもつながることから、今後も実証実験を継続していきます。



AI オンデマンド乗合サービス



ゆっくりカート

○かすがいシティバス

公共交通空白地域における昼間の時間帯の高齢者の移動手段の確保及び環境負荷の軽減を目的として、4路線（東北部線、東南部線、南部線、北部線）と1区域で、かすがいシティバスを運行しています。環境にやさしい交通手段の一つとして、多くの市民が利用しています。



かすがいシティバス

運賃は、200円の均一運賃（高齢者等一部割引有）となっています。

かすがいシティバス利用者数

2019年度	2020年度	2021年度
328,381人	242,555人	261,370人



かすがいシティバス

○事業所立入（大気、水質汚濁、土壌・地下水、騒音・振動、悪臭）

公害防止のため、水質汚濁防止法など、各種法令等に基づいて事業所の立入調査を行い、設備の維持管理状況等を確認することにより、規制基準の遵守や有害物質の適正管理、地下浸透の防止等の指導を行っており、2021年度における事業所立入件数は合計で344件となっています。

事業所立入件数（2021年度）

	大気・悪臭	水質汚濁	土壌・地下水	騒音・振動
立入件数	67	137	54	86

○環境配慮型合併処理浄化槽の設置費補助

生活排水の排出による公共用水域の水質汚濁の防止を図るため、生活雑排水（台所、風呂及び洗濯等の排水）と、し尿を併せて処理できる合併処理浄化槽の設置に対し、補助を実施しました。



合併処理浄化槽の
設置費補助制度

合併処理浄化槽設置費補助件数

人槽区分	2019年度		2020年度		2021年度	
	新設基数 ^{※1}	転換基数 ^{※2}	新設基数 ^{※1}	転換基数 ^{※2}	新設基数 ^{※1}	転換基数 ^{※2}
5人槽	94	52	90	50	69	45
7人槽	32	26	25	33	30	33
10人槽	7	3	8	1	6	0
合計	133	81	123	84	105	78

※1:新設基数は建築確認申請を伴う工事

※2:転換基数はくみ取り便槽からの転換も含む

第3章 地球温暖化対策実行計画



地球温暖化対策実行計画の概要

めざすまちの姿

環境にやさしいまち

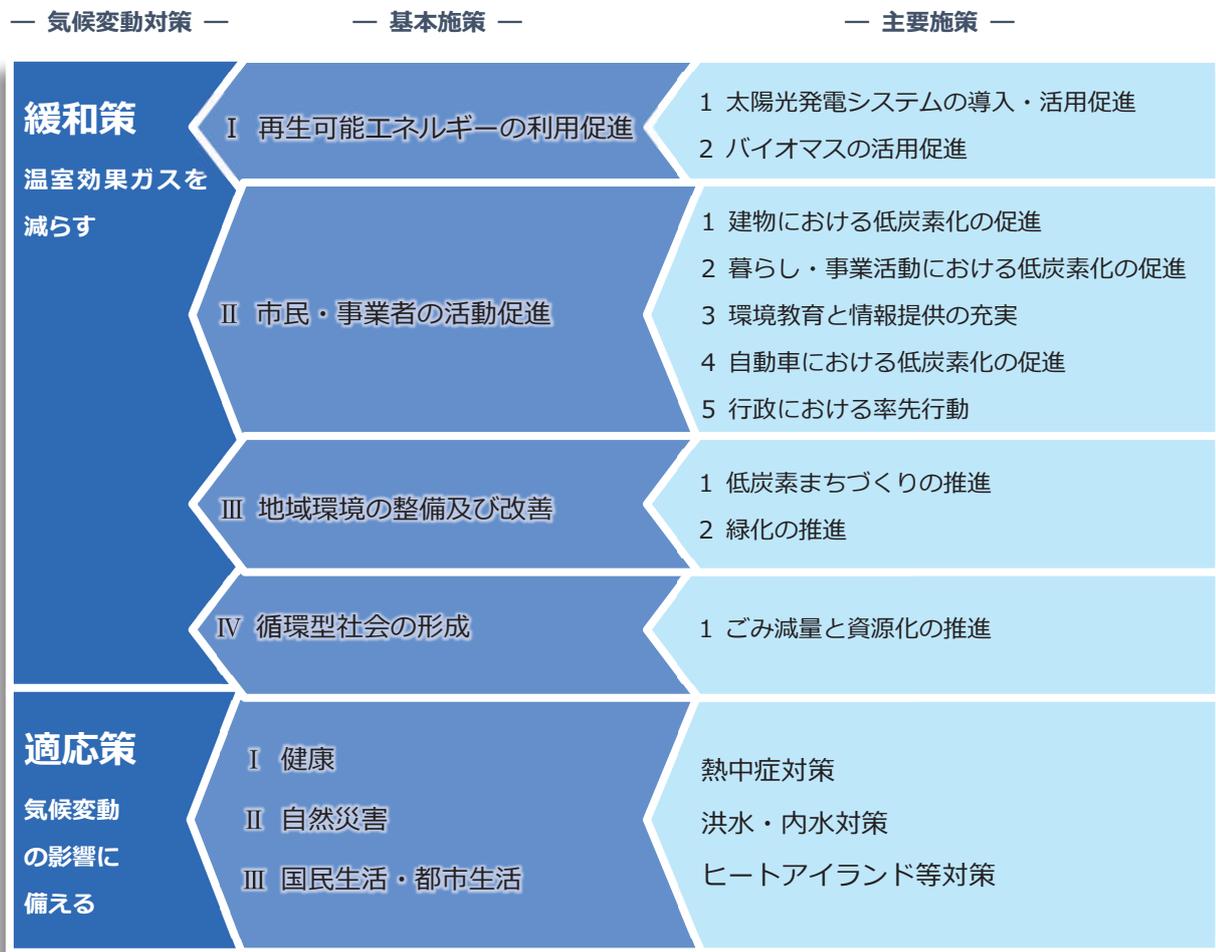
基本理念

再生可能エネルギーの利用や省エネルギーを意識した行動など、環境にやさしい取組みを促進するとともに、事業活動や日常生活における公害の未然防止と環境負荷の低減を促進し、持続可能な社会の実現を図ります。

計画の目標

市内から排出される温室効果ガスの削減や気候変動の影響への対処に向け、市民・事業者・市で取り組む対策を区域の自然的社会的条件に応じて、総合的、計画的に進めます。

施策の体系



削減目標の進捗状況

温室効果ガス排出状況

春日井市の温室効果ガス排出量の推移

(単位：千 t-CO₂)

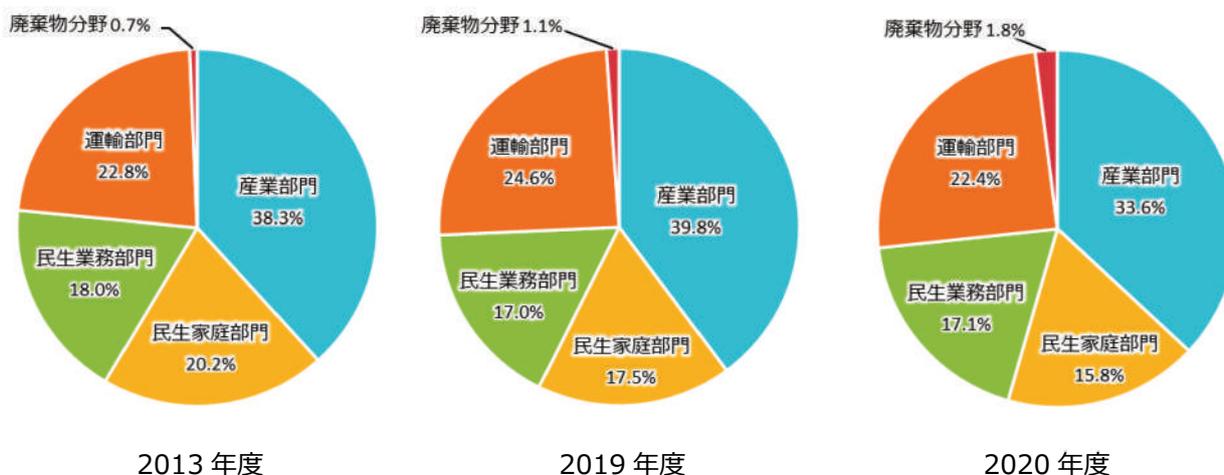
部門・分野	年度	基準年度 2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	最新年度 2020	増減率 (基準年度比)	増減率 (前年度比)
二酸化炭素	産業部門	774.1	755.2	711.0	762.4	663.6	720.5	694.3	584.9	-24.4%	-15.8%
	民生家庭部門	363.9	341.3	314.3	318.5	329.9	306.9	295.5	298.5	-18.0%	1.0%
	民生業務部門	408.3	392.4	374.9	322.4	321.2	325.1	304.7	276.1	-32.4%	-9.4%
	運輸部門	460.4	448.6	449.0	447.1	442.5	437.5	428.0	390.7	-15.1%	-8.7%
	廃棄物分野	13.6	16.4	13.6	16.8	27.6	16.3	19.9	31.5	132.1%	58.5%
二酸化炭素 小計		2,020.3	1,953.9	1,862.7	1,867.2	1,784.8	1,806.3	1,742.3	1,581.8	-21.7%	-9.2%
その他ガス	メタン	3.0	3.0	2.5	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	-3.7%	-0.7%
	一酸化二窒素	6.7	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6	6.6	6.3	-5.2%	-4.4%
温室効果ガス 合計		2,030.0	1,963.5	1,871.8	1,876.7	1,794.2	1,815.8	1,751.8	1,591.0	-21.6%	-9.2%

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

※各種統計データ、算定方法の見直し等により、再計算しています。

※推計に使用する都道府県別エネルギー消費統計の最新の公表値が2020年度のため、最新年度が2020年度となっています。

部門・分野別二酸化炭素排出量の割合



削減目標 温室効果ガス総排出量（2013年度比）



2020年度
-21.6%

温室効果ガス総排出量（2013年度比）は目標達成に向けて順調に進んでいます。

前年度に比べ減少しています。

温室効果ガス排出量増減の主な要因

本市の2020年度の温室効果ガス排出量は、1,591.0千t-CO₂であり、基準年度(2013年度)比21.6%の減少、前年度比9.2%の減少となっています。

基準年度から排出量が減少した要因は、省エネの進展や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等によるエネルギー消費量の減少、電力の排出係数の改善に伴う電力由来の排出量の減少等によるものと考えられます。

なお、電力の排出係数（中部電力ミライズ株式会社）は、0.513kg-CO₂/kWh（2013年度）から、0.406kg-CO₂/kWh（2020年度）に減少しています。

前年度から排出量が減少した要因は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に起因する製造業の生産量や旅客・貨物輸送量の減少等によりエネルギー消費量が減少したためと考えられます。

削減目標 部門別二酸化炭素排出量（2013年度比）

(単位：千t-CO₂)

部門	基準値 (2013年度)	前回値 (2019年度)	最新値 (2020年度)	目標値 (2030年度)	進捗 状況	(参考) 最新値 前年度比
産業部門 【2013年度比】	774.1 【—】	694.3 【-10.3%】	584.9 【-24.4%】	673.5 【-13%】		-15.8%
民生家庭部門 【2013年度比】	363.9 【—】	295.5 【-18.8%】	298.5 【-18.0%】	218.4 【-40%】		1.0%
民生業務部門 【2013年度比】	408.3 【—】	304.7 【-25.4%】	276.1 【-32.4%】	208.2 【-49%】		-9.4%
運輸部門 【2013年度比】	460.4 【—】	428.0 【-7.1%】	390.7 【-15.1%】	331.5 【-28%】		-8.7%

部門別二酸化炭素排出量増減の主な要因

部門	主な要因（基準年度比）	主な要因（前年度比）
産業部門	基準年度比 24.4%減少。電力の排出係数が改善したことや新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により製造業における生産量が減少しエネルギー消費量が減少したため。	前年度比 15.8%減少。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による需要の低迷等により、製造業における生産量が減少しエネルギー消費量が減少したため。
民生家庭部門	基準年度比 18.0%減少。節電や省エネ等によるエネルギー消費量の減少や電力の排出係数が改善したため。	前年度比 1.0%増加。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で在宅時間が増加したこと等により、エネルギー消費量が増加したため。
民生業務部門	基準年度比 32.4%減少。節電や省エネ等によるエネルギー消費量の減少や電力の排出係数が改善したため。	前年度比 9.4%減少。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による外出自粛等により、第三次産業の活動が低迷し、エネルギー消費量が減少したため。
運輸部門	基準年度比 15.1%減少。自動車の燃費の改善や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等で旅客輸送量、貨物輸送量が減少したため。	前年度比 8.7%減少。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で旅客輸送量、貨物輸送量が減少したため。

成果指標の進捗状況

部門	成果指標（2013年度比）	前回値	最新値	目標値	進捗状況
民生	各世帯の1か月あたりの平均電気使用量 ^{※1,※2}	-7.3% (2020年度)	-7.3% (2021年度)	-14% (2030年度)	
家庭	各世帯の1か月あたりの平均ガス使用量 ^{※1,※3}	-9.7% (2019年度)	-3.2% (2020年度)	-14% (2030年度)	
民生	延床面積1㎡あたりの年間エネルギー消費量 ^{※2}	- ^{※4}	-24.5% (2019年度)	-32% (2030年度)	
運輸	自動車1台あたりの年間化石燃料消費量	-4.9% (2018年度)	-3.9% (2019年度)	-30% (2030年度)	

※1 世帯の構成人数や季節等により実際の使用量と差が生じる場合があります。

※2 各種統計データ、算定方法の見直し等により、再計算しています。

※3 ガス使用量は都市ガス使用量を指します。

※4 愛知県提供の値を使用しており、基準年度（2013年度）及び2019年度の数値のみ再計算されたため、前回値はありません。

施策の展開

○「ゼロカーボンシティ かすがい」宣言

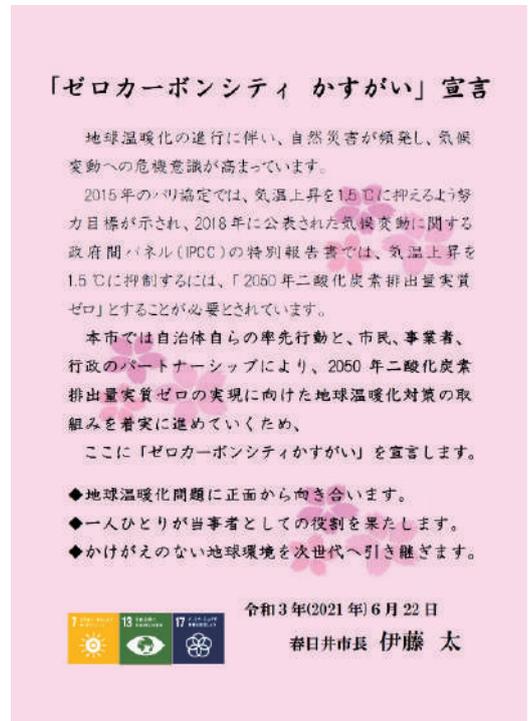
2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向けた地球温暖化対策の取組みを着実に進めていくため、2021年6月22日に「ゼロカーボンシティ かすがい」を宣言しました。

この宣言を推進するため、鈴与電力株式会社と「公共施設への電力供給とゼロカーボン推進に関する連携協定」を結び、同じ鈴与グループの協賛会社三社を加えた五者で覚書を交わしました。

協定に基づき、7月から、市クリーンセンターの廃棄物焼却熱を利用し発電した二酸化炭素を排出しない電力の有効活用として、本庁舎や小中学校など市内108施設へ電力供給を行っています。その中で、小中学校では、電力使用量をクリーンセンターの発電電力量で賄うエネルギーの地産地消とRE100(春日井版)^{※1}に取り組んでいます。

また、新たな環境教育の場の提供として、覚書を交わした株式会社フジドリームエアラインズによる環境講演や格納庫の見学を実施するなど、今後の地球環境問題を担う世代の育成にも力をいれています。

※1：公共施設で使用する電力を、クリーンセンターで発電した再生可能エネルギーで100%賄うこと。



「ゼロカーボンシティ かすがい」宣言文



協定の締結



覚書の締結



環境講演



格納庫の見学

○住宅用太陽光発電システム・燃料電池・蓄電池・HEMSなどの設置費補助

エネルギーを効率的に利用して節約する省エネ機器やエネルギーを創り出す創エネ機器、エネルギーを蓄えて必要なときに利用できる蓄エネ機器等の設置に対し、補助を実施しました。

なお、1998年度からの累計で、4,920件、22,795kWの太陽光発電システムに対し補助しました。それにより、年間約10,255t^{※1}の二酸化炭素排出量の削減が見込まれます。



住宅用地球温暖化対策機器設置費の補助制度

住宅用地球温暖化対策機器設置費補助件数

内容	2019年度	2020年度	2021年度
一体的導入 ^{※2}	72件	60件	78件
燃料電池システム	91件	82件	68件
家庭用エネルギー管理システム	45件	46件	45件
定置用リチウムイオン蓄電システム	111件	138件	114件
窓断熱改修	18件	15件	13件

※1：最大出力値×1,000×中部電力ミライズ（2021年度）の二酸化炭素排出係数0.449（kg-CO₂/年）

※2：太陽光発電システム、家庭用エネルギー管理システム、定置用リチウムイオン蓄電システムの一体的導入補助

○エコライフセミナー

家庭でできる地球温暖化対策や環境に優しいライフスタイルへの転換、エネルギーの大切さについて学び、考えるきっかけづくりとして、エコライフセミナーを実施しました。



エコライフセミナー

実施内容（2021年度）

イベント名	開催日	参加者	内容
竹であそぼう！ ～水でっぼう作り～	8月4日 (水)	10組 26人	ゼロカーボンミニ講座「未来の地球と私たちの暮らし」で地球温暖化について学んだ後、竹を使った水鉄砲を作り、その水鉄砲で打ち水を実施し、環境に優しいライフスタイルへの転換を学んだ。



竹で水でっぼう作り



打ち水

○太陽光発電システム等の導入による公共施設の脱炭素化

公共施設の屋根等を利用し、自然エネルギーを活用した太陽光発電システムの導入を進めることで、公共施設の脱炭素化に努めています。

太陽光発電システム設置施設

No	施設名	設置年月	最大出力値	年間 CO ₂ 削減量 ^{※1}
1	第一希望の家	2000年2月	10.0 kW	4.5t-CO ₂
2	丸田小学校	2002年2月	30.0 kW	13.5t-CO ₂
3	勝川駅南口立体駐車場	2002年11月	6.5 kW	2.9t-CO ₂
4	出川小学校	2007年2月	30.0 kW	13.5t-CO ₂
5	小野保育園	2011年3月	5.0 kW	2.3t-CO ₂
6	少年自然の家	2012年3月	40.0 kW	18.0t-CO ₂
7	エコメッセ春日井	2012年3月	10.0 kW	4.5t-CO ₂
8	神領保育園	2013年3月	5.0 kW	2.3t-CO ₂
9	落合公園体育館	2013年4月	10.0 kW	4.5t-CO ₂
10	知多公民館 ^{※2}	2014年3月	49.5 kW	22.2t-CO ₂
11	総合保健医療センター ^{※2}	2014年4月	47.5 kW	21.3t-CO ₂
12	東部調理場	2014年9月	30.0 kW	13.5t-CO ₂
13	東部市民センター ^{※2}	2015年12月	60.2 kW	27.0t-CO ₂
14	総合福祉センター ^{※2}	2016年1月	38.7 kW	17.4t-CO ₂
15	坂下公民館	2016年1月	20.0 kW	9.0t-CO ₂
16	衛生プラント処理棟 ^{※2}	2016年3月	125.1 kW	56.1t-CO ₂
17	味美ふれあいセンター ^{※2}	2016年3月	49.5 kW	22.2t-CO ₂
18	西部ふれあいセンター ^{※2}	2016年3月	47.3 kW	21.2t-CO ₂
19	総合体育館 ^{※2}	2016年3月	51.6 kW	23.2t-CO ₂
20	新藤山台小学校 ^{※2}	2016年3月	30.0 kW	13.5t-CO ₂
21	J R 春日井駅	2016年7月	46.0 kW	20.7t-CO ₂
22	第一保育園 ^{※2}	2016年9月	56.7 kW	25.5t-CO ₂
23	本庁舎	2016年12月	20.7 kW	9.3t-CO ₂
24	清掃事業所 ^{※2}	2016年12月	315.9 kW	141.8t-CO ₂
25	市営下原住宅 ^{※2}	2018年11月	49.2 kW	22.1t-CO ₂
合計 ^{※3}			1,184.4 kW	532.0t-CO ₂

※1：最大出力値×1,000×中部電力ミライズ（2021年度）の二酸化炭素排出係数 0.449 (kg-CO₂/年)

※2：屋根貸しにより設置

※3：四捨五入の関係で合計が一致しない場合があります。

○エコライフ DAY の普及啓発

毎月第1水曜日を「エコライフDAY」と定め、市民や事業者の皆さんそれぞれが地球環境に優しい行動を積極的に行う日としています。啓発チラシを配布するほか、庁内放送による周知、環境カレンダー（ごみ出しカレンダー）へ記載するなどエコライフ DAY の普及を図っています。



エコライフ DAY

2021年8月4日（水）のエコライフDAYには、日本古来の涼み方である「打ち水」を市役所で73人、その他市公共施設で270人（45施設）、かすがいエコオフィスで262人（38事業所）の皆様にご参加いただき、市内各所で行いました。

打ち水参加かすがいエコオフィス認定事業所（2021年度）

No.	施設名	No.	施設名
1	愛知タイヤ工業株式会社 春日井工場	20	亀甲通運株式会社
2	一般社団法人 中部電気保安協会 春日井営業所	21	社会福祉法人サン・ビジョン グレイスフル浅山
3	医療法人社団喜峰会 デイサービス喜峰	22	社会福祉法人サン・ビジョン グレイスフル春日井
4	王子製紙株式会社 春日井工場	23	昭和精機株式会社 高蔵寺工場
5	介護老人保健施設 グレイスフル春日井	24	大和エネルギー株式会社
6	株式会社ウエダ	25	中部精機株式会社
7	株式会社大垣共立銀行 味美支店	26	中部電力パワーグリッド株式会社 春日井営業所
8	株式会社大垣共立銀行 春日井支店	27	東春信用金庫 朝宮支店
9	株式会社大垣共立銀行 春日井市役所出張所	28	東春信用金庫 春日井支店
10	株式会社大垣共立銀行 勝川支店	29	東春信用金庫 勝川支店
11	株式会社大垣共立銀行 高蔵寺支店	30	東春信用金庫 高蔵寺支店
12	株式会社大垣共立銀行 ニュータウン支店	31	東春信用金庫 六軒屋支店
13	株式会社大垣共立銀行 東野支店	32	東濃信用金庫 小野支店
14	株式会社春水園	33	東濃信用金庫 勝川支店
15	株式会社ソシオネクスト高蔵寺事業所	34	東邦ガス株式会社設備部 名古屋地域センター 春日井営業所
16	株式会社中部レキセイ	35	トヨタホーム株式会社 春日井事業所
17	株式会社ティーイーティー	36	日本ガイシ株式会社 小牧事業所
18	株式会社ビクター化学工業所	37	パナソニック エコシステムズ株式会社
19	株式会社松浦組	38	レンゴー株式会社 新名古屋工場

○緑のカーテンの推進

市では、家庭や事業所でできる地球温暖化対策、節電対策、ヒートアイランド対策等として有効な「緑のカーテン」の普及啓発を図るため、実演を交えながらゴーヤの育成方法を学ぶ「緑のカーテン育成講座」を実施しました。



緑のカーテン

2021年度は、公共施設 86 施設、かすがいエコオフィス認定事業所 7か所において「緑のカーテン」が設置され、市のホームページにおいても取り組みを紹介しました。

緑のカーテン育成講座（2021年度）

開催日	場所	参加人数
5月9日（日）	坂下公民館	13人

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、他3回の育成講座を中止



緑のカーテン育成講座



苗の植付けの実演

緑のカーテン設置エコオフィス認定事業所（2021年度）

事業所名
株式会社大垣共立銀行 春日井支店
東濃信用金庫 高蔵寺支店
社会福祉法人サン・ビジョン グレイスフル浅山
株式会社ウエダ
株式会社ビクター化学工業所
株式会社エージック
株式会社服部工務店



株式会社ウエダで設置された緑のカーテン

○熱中症に関する情報提供、注意喚起

市では、子育て情報発信サイト「春日井ハッピー맘ズ」のメルマガ登録者や、安全安心メールを通じて熱中症の注意喚起メールを送信するほか、市ホームページを通じた情報提供を行いました。



ハッピー맘ズ

メールでの注意喚起（2021 年度）

	回数	登録数（2021 年度末）
春日井ハッピー맘ズ（随時配信）	17 回	841 件
安全安心メール（随時配信）	18 回	24,387 件



安全安心情報ネットワーク

○洪水ハザードマップ及び避難情報等に関する情報提供、注意喚起

市では、国・県管理河川の洪水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ及びため池ハザードマップを作成し、自然災害が想定される区域及び避難場所、避難経路を示しています。



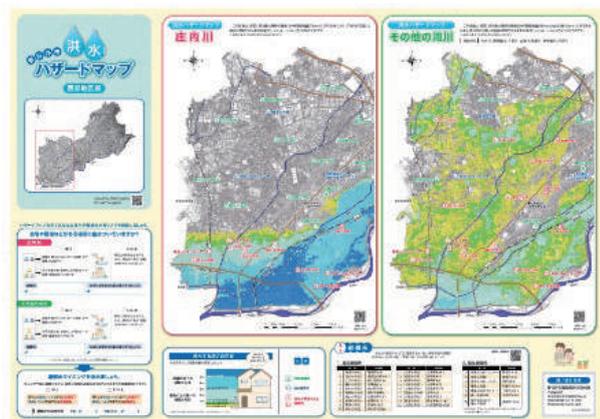
洪水ハザードマップ

また、洪水等により避難が必要となった場合に、市ホームページ、緊急速報メール、安全安心メール※

1、音声架電システム※2、Lアラート、ツイッター、広報車等様々な手段を用いて避難情報を提供しています。

※1：安全安心メール：「春日井市安全安心情報ネットワーク」に情報配信登録をされた方に気象情報（気象、地震、避難情報等）などをメールで配信

※2：音声架電システム：区長・町内会長・自治会長等（避難情報等を発令した地域が対象）に対し、自動音声による電話連絡を一斉に行うことができるシステム



洪水ハザードマップ

○雨水流出抑制施設の設置促進

大雨時の浸水被害を軽減させるため、公園や区画整理区域内に表面貯留施設や地下貯留施設を設置し、雨水流出抑制対策を推進しています。



治水の取り組み

2021 年度までに 53 施設を設置し、累計の貯留量は 185,861 立方メートルとなります。



熊野桜佐地区雨水 2 号調整池（施工時写真）

第4章 生物多様性地域戦略



生物多様性地域戦略の概要

策定の意義

生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性を浸透させるとともに、多様な主体による取組みを進めることです。

めざすまちの姿

東部の丘陵や河川沿いに広がる田園地帯などを中心とした豊かな生態系や良好な景観が、多様な主体の活動により保全され、その恩恵が享受できています。

私たちの暮らしが生物多様性による恵みによって支えられていることを、一人ひとりが正しく理解し、次世代へ継承されています。

戦略の体系

— 基本方針 —

— 施策 —

1

多様な生き物の生息・生育環境の保全

- ・生息・生育環境の保全
- ・関係部署との連携
- ・外来種対策

2

持続可能な生物多様性の恩恵の享受

- ・良好な自然環境の維持
- ・恩恵の持続的な利用
- ・自然とのふれあいの場の提供

3

生物多様性を支える人材の育成

- ・環境啓発の拡充
- ・保全活動の推進
- ・生物多様性を支える仕組み作り

基本方針 1 多様な生き物の生息・生育環境の保全

目標の進捗状況

目標 市域全体の自然環境基礎調査

市域全体の自然環境基礎調査の計画立案をしています。

施策の展開

○希少野生動植物種の保護

市では、希少な野生動植物を守るために、2012年1月10日、市指定希少野生動植物種8種を指定しました



○植物：シデコブシ、ササユリ、ヒメカンアオイ

○動物：カヤネズミ、ヨタカ、ナゴヤダルマガエル、ギフチョウ、ヒメタイコウチ

自然環境保全活動推進員が毎年度継続的に月1回の巡視活動を実施し、希少種の調査や保護啓発を行っています。また、緑と花のフェスティバルやエコワールドなどで自然環境保全や外来種問題等について、パネル展示やパンフレットにより周知啓発を行っています。



パンフレット「守りたい春日井の自然」

○外来種の放逐等の規制

市内で問題となっている身近な外来種を取り上げ、「外来種はどんな問題を起こすのか」、「どのように入ってきたのか」を例示し、外来種問題を「知ること」、「認識すること」を目的としてパンフレットを作成しています。



市内で捕獲されたカミツキガメ



外来種に関するパンフレット



外来種について

基本方針 2 持続可能な生物多様性の恩恵の享受

目標の進捗状況

目標	前回値	最新値	目標値	進捗状況
市内全体の緑被率	42.0% (2014 年度)	40.6% (2020 年度)	維持(40.6%) (2030 年度)	
民有地緑化の箇所数を増やす (あいち森と緑づくり事業)	—	2箇所 (2021 年度)	5箇所 (2030 年度)	

施策の展開

○少年自然の家周辺での取組み

愛知高原国定公園に指定されている、優れた自然環境に恵まれた少年自然の家周辺において、地域の自然を活かした様々な自然学習を実施しました。(19 イベントで延べ 8,012 人参加。)



少年自然の家

少年自然の家周辺での自然学習 (2021 年度)

イベント名	開催日等	参加者	内容
築水池カヌー体験	7月17日(土) 7月18日(日)	54人	カヌーでしか味わえない景色を楽しむとともに水鳥の視点で水上から自然観察を実施した。
サマーキャンプ 2021	7月24日(土) 8月11日(水) ～8月15日(日)	21人	子どもだけの長期(4泊5日)テント泊のキャンプを実施した。
自然体験プログラム (夏季・冬季)	夏季7月21日(水) ～8月31日(火) 冬季12月25日(土) 他7日	614人	夏季 ナイトハイクと天体観測・火おこし体験他 冬季 餅つき・キャンドルづくり・たき火&焼きいも他
野外活動・自然体験 指導者講座	7月31日(土)	10人	プロジェクト・ワイルドのエducーター養成講座
全力!虫とり ×キャンプ	9月11日(土) 9月12日(日)	16人	虫ざんまいのキャンプを実施した。
万葉の花めぐり	4月22日(木) 10月7日(木)	延べ28人	万葉集の和歌を楽しみ歌にある植物の観察会を実施した。
初めて挑戦! アウトドア[秋]	10月2日(土) 10月3日(日)	36人	初めての仲間と宿泊棟に泊まり、季節にあわせた自然体験を実施した。
初めて挑戦! アウトドア[冬]	11月20日(土) 11月21日(日)	34人	

イベント名	開催日等	参加者	内容
地域ミライ防災 ×キャンプ	10月30日(土) 10月31日(日)	24人	災害時に必要な技術を学ぶキャンプを実施した。
冬のファミリー キャンプ	12月11日(土) 12月12日(日)	60人	家族で自然素材を使ったリースづくり、もちつき等 を実施した。
わくわく自然ランド	年4回実施	158人	身近なフィールドである春日井の東部丘陵の魅力と 四季折々の自然に触れるイベントを実施した。
あそびむしくらぶ	年8回実施	158人	2、3歳児とその保護者を対象として、年間を通じ て身近な自然環境を体験するイベントを実施した。
自然学校	年5回実施	89人	地域特有の湿地と生物の観察や雑木林の手入れを通 して里山の生物多様性とその保護の必要性を学ぶイベ ントを実施した。
大人の里山歩き	年5回実施	65人	東部丘陵の四季折々の自然を感じながら里山歩きを 実施した。
ツキイチ里山歩き隊	年10回実施	92人	健康維持のためのウォーキングやトレッキングを実 施した。
里山体験 [田んぼと森の学校]	年9回実施	188人	米作りや森の手入れを中心に、豊かな里山の自然を 五感を使って楽しむ講座を実施した。
環境教育プログラム	随時	1,321人	プロジェクト・ワイルドのアクティビティで野生生 物の生態や行動を通じて、自然環境について学ぶ教育 プログラムを実施した。
ネイチャーガイド ×トレッキング	随時	2,078人	小学5年生(野外学習)を対象にガイドと一緒に歩 き、四季折々の自然を感じながらトレッキングを実施 した。
野外学習 夜間プログラム	随時	2,239人	ナイトハイクをしながら夜の野生生物の生態につい て学ぶ学習プログラムを実施した。
出張自然講座	随時	727人	申込者のニーズにあわせた自然講座を実施した。

基本方針 3 生物多様性を支える人材の育成

目標の進捗状況

目標	前回値	最新値	目標値	進捗状況
「生物多様性」の言葉の意味の認識率	—	51.2% (2020 年度)	75.0% (2030 年度)	
☆自然環境保全活動推進員の委嘱人数（任期2年）〔延べ〕	190 人 (2019 年度)	226 人 (2021 年度)	350 人 (2030 年度)	

施策の展開

○自然観察会・自然環境学習会

自然とふれあう機会の提供と、自然環境の保全に対する理解と関心を深めるため自然環境保全活動推進員が講師となり、自然観察会・自然環境学習会を実施しています。

2021 年度は、自然観察会と2回の自然環境学習会を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、自然観察会と自然環境学習会1回が中止となりました



自然観察会
自然環境学習会

実施内容（2021 年度）

イベント名	開催日	場所	参加者	内容
秋の自然環境学習会	11 月 14 日（日）	潮見坂 平和公園	7 人	潮見坂平和公園の山林や竹林の中で野生植物等の観察を行った。また、公園内の自然素材を使いリースを作成した。



秋の自然環境学習会

○自然環境保全活動推進員

自然環境の保全に関する知識の普及や保全活動の推進のため、2021 年度は、第 8 期（2021、2022 年度）の推進員 36 人で活動しました。

この推進員は、自然環境の保全を推進するリーダーとして、次の役割を担います。



自然環境保全
活動推進員

- ① 自然環境の保全に関する普及活動の推進
- ② 自然環境の保全に必要な巡回活動
- ③ 自然環境調査等への協力
- ④ 指定希少野生動植物種の保護啓発の巡回活動

～2021 年度の活動内容～

- 1 希少種保護の巡回活動 月 1 回
 - 2 意見調整や情報交換のための連絡会議 年 6 回
 - 3 資質向上のためのステップアップ講座 年 7 回
- 4 月「ギフチョウの成体数調査」 4 月・1 月「竹林の整備」 5 月「ツバメ調査」
11 月「地質を学ぶ」 11 月「ネイチャーゲーム」 12 月「SDGs」



ステップアップ講座（地質を学ぶ）



ステップアップ講座（SDGs）

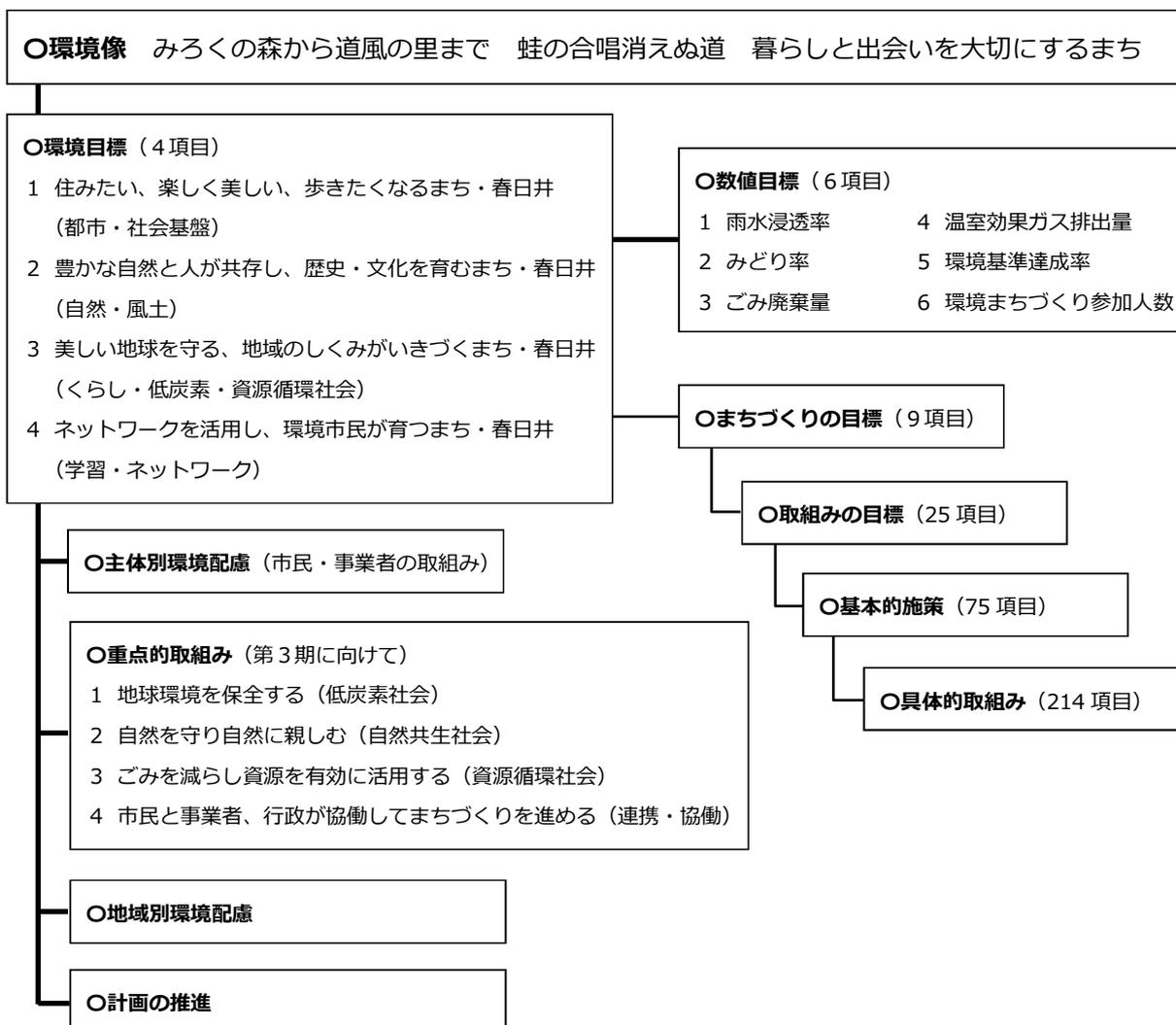
参考 春日井市環境基本計画（2013年度改定版）

春日井市環境基本計画（2013年度改定版）の概要

計画策定（見直し）の背景

本市の環境を保全、創造し、次代を含めた市民が快適に暮らすことができるような各種の取組みを総合的かつ計画的に推進することを目的に、2002年3月に「春日井市環境基本計画」を策定し、その後、社会情勢の変化や施策の成果などを反映させるため、2度の見直しを行いました。市民、事業者、行政の三者協働によるまちづくりパートナーシップ会議を推進機関として環境市民を育むなど、各種取組みを総合的かつ計画的に推進してきました。

計画の体系



計画期間

2002年度から2021年度までの20年間

数値目標の達成状況

4つの環境目標の実現に向け、目標の達成状況を分かりやすいものにするため、数値目標を設定しています。2021年度の数値目標の達成状況は、次のとおりです。

	項目	基準年度	数値目標		最新値 (2021年度)	評価
1	雨水浸透率	—	0.36以上		0.366	達成
2	みどり率	—	将来市街地	10%以上	24.3%	達成
			市域全体	30%以上	40.6%	達成
3	ごみ廃棄量 ^{※1}	2010	ごみ排出量	130g削減 (1人1日あたり)	70g削減	未達成
			家庭系ごみ排出量	15%削減	18.9%削減	達成
			事業系ごみ排出量	20%削減	3.4%増加	未達成
4	温室効果ガス排出量 ^{※1}	2008	市内全域	17%削減	16.6%削減 (2020年度)	達成見込み
5	環境基準達成率	—	大気、水質、騒音に関する 12項目の達成状況	各項目で 100%達成	10項目達成	10/12 達成
6	環境まちづくり参加人数	—	イベント等への参加人数	総人口の10%	13.6%	達成

※1「ごみ廃棄量」「温室効果ガス排出量」の数値目標は2019年3月に「ごみ処理基本計画」「地球温暖化対策実行計画」を改定したことに伴い変更となりました。新たに策定した「環境基本計画2022-2030」の指標は、関連計画の目標と整合性を図っています。

総括

9つの数値目標の内、5つを達成しています。今後は、新たに策定した環境基本計画2020-2030に基づき、引き続き各種施策を推進します。

ごみ排出量及び事業系ごみ排出量は未達成となっています。ごみ処理基本計画に基づき、さらなるごみの減量や資源化に取り組みます。

温室効果ガス排出量は、2020年度時点で目標の達成に向けて順調に推移しています。今後は地球温暖化対策実行計画に基づき、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ」に向け、さらなる削減に取り組みます。

環境基準達成率は、大気・水質・騒音に関する全12項目中10項目が環境基準を達成しています。健康項目（地下水）では、1地点において、環境基準の超過を確認しましたが、周辺調査を実施するとともに、周辺住民に汚染の状況を周知しました。今後も、継続的な地下水の水質調査を実施します。環境騒音（自動車騒音）では、環境基準をおおむね達成しており、騒音改善の措置を関係機関に要請する際の限度を超過した地点はありませんでした。



落合公園フォリー水の塔

環境報告書(2022年度版)

2023年3月 発行

編集 春日井市環境部環境政策課
〒486-8686 春日井市鳥居松町5丁目44番地
電話 (0568)85-6216
FAX (0568)84-8731
E-mail kansei@city.kasugai.lg.jp